

MG archives

今と昔をつなぐ噴水池

現在、礼拝堂の脇にある噴水池は、東三番丁の旧キャンパス時代から学生たちの憩いの場でした。その歴史は意外に古く、1928年に昭和天皇の御大典記念として建設されたのが始まりです。長く本校の象徴の一つとして親しまれてきた噴水池。実は1980年の桜ヶ丘キャンパス移転時には、これらの移設は含まれていなかったことが当時の関係者の話からわかりました。移転から3年後、噴水池に強い思い入れのある同窓生から資金が集まり、ようやく今の場所に復元されます。旧キャンパスと新キャンパスの接点ともいえる噴水池。いつしか「建学の泉」と呼ばれるようになり、今日もまた静かに学生達を見守り続けています。



①1980年まであった東三番丁校舎の噴水
②現在の桜ヶ丘キャンパスの噴水

は1980年の桜ヶ丘キャンパス移転時には、これらの移設は含まれていなかったことが当時の関係者の話からわかりました。移転から3年後、噴水池に強い思い入れのある同窓生から資金が集まり、ようやく今の場所に復元されます。旧キャンパスと新キャンパスの接点ともいえる噴水池。いつしか「建学の泉」と呼ばれるようになり、今日もまた静かに学生達を見守り続けています。

(宮城学院資料室)

宮城学院オリーブ募金

学生生徒園児の教育・学習・保育環境の整備として、在学生の保護者の方々、同窓生をはじめ、多くの方々より本学院へのご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

寄付には4種類のメニューをご用意いたしました。皆様の想いや願いを汲み取り、更なる発展へと繋げるべく活用させていただきます。

※本寄付はあくまで任意の募集です。

寄付の種類

- 学生・生徒の奨学基金
優秀で意欲的でありながら経済的な困難を抱えている学生に対し、勉学に専念できるよう奨学金の一層の充実をはかります。
- 教育・研究振興支援
次世代を担う人材育成や社会貢献を見据えた教育・研究のために役立ちます。
特定研究支援/外国人留学生奨学金
- 施設・設備充実支援
教育・研究・学習活動のためのICT関連を中心とした施設設備の整備・拡充等、学修・学習環境の向上のために活用します。
- 課外活動支援
学生が様々な活動に積極的に取り組み、かけがえない経験を重ねるなかで仲間との絆を深め、達成感を得ることで学生生活がより実りあるものとなるよう支援を行います。

お申込み方法

1. 銀行からのお振込み

本学院指定の振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの銀行等からお振込みください。なお、七十七銀行本支店、仙台銀行本支店、ゆうちょ銀行から本学院指定用紙を使用してお振込みいただけますと振込手数料はかかりません。

※お手元に振込用紙がない場合はお送り致しますので、募金事務局までご連絡ください。

2. ウェブサイトからのお振込み

クレジットカード決済もしくはコンビニ支払でご寄付頂けます。

3. 現金書留

募金事務局宛てにご送付ください。



お問い合わせ

学校法人宮城学院募金事務局 (総務人事部内)

TEL. 022-279-1311 E-mail. kifu@mgu.ac.jp

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]



あなたのこれからの贈りたい
Live Letter from MG



- 15 MG archives / お知らせ
- 14 CAMPUS NEWS
- 13 サークル紹介
- 11 卒業生の仕事場訪問
- 11 Myway M G way
- 09 ACTION
- 09 躍動するMG生
- 05 特集
- 05 開学70周年記念事業
- 05 2019大学祭開催
- 01 誌上ゼミ
- 01 人と人、人と地域がつながるといふ
- 01 観光の本質を武器に豊かな人生を築く



人と人、人と地域がつながるといふ 観光の本質を武器に豊かな人生を築く

観光を実践的に学び、地域が抱える課題を探り研究を重ねる

学術論文と新書を読み皆で共有
地域の課題や可能性を検討

宮原 この「ビジネス課題研究Ⅰ」は、文献の研究だけでなくフィールドワークを行い、地域が抱えている課題を深く理解して解決に向



宮原 育子 教授

けたらと思っています。
木村 2年生の時に受講した宮原先生の別のゼミがきっかけです。多種多様な経験ができ、卒論も観光を取り上げたいと思いました。商店街のプロジェクトでは、情報誌の方からアドバイスをいただいています。異なる立場からの目線や意見を深めること、私たちに求められることに応えるのは難しい部分も多いです。もっと現地に行き調査を重ね、自分たちの考えを形にしていきたいと思っています。

北郷 私は高校の時から、観光学を勉強したいと思っていました。進学先を調べる中で宮原先生のことを知り、当時から先生のゼミに入りたくて考えていました。商店街のプロジェクトでは、出身地である塩竈の新たな一面が見ら

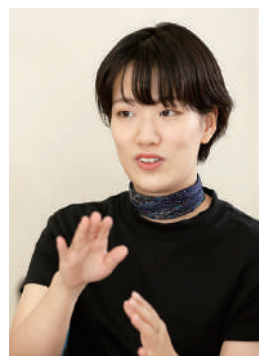
かう考え方や手法を身につけます。前期は卒業論文の練習の一環として学術論文の講読と新書の紹介を行いました。2人でペアを組み、前半は1人が選んだ観光関係の論文を要約し、概要を講義してもらいました。後半はもう1人が新書を1冊選び内容を紹介。自分の考えを相手に伝える力を磨きます。そして7月中旬からは、地域の商店街のあり方について調査し、課題解決へ向けて提案するプロジェクトに取り組んでいます。これは地元経済情報誌からの依頼

で、最終的に誌面に掲載する記事を書きます。対象は塩竈市の商店街で、実際に現地で調査・観察を行っています。現在は情報誌の方々と話し合いを進めているところです。それでは、皆さんが「ビジネス課題研究Ⅰ」を選んだ理由を教えてください。

鶴谷 私が宮原先生のゼミを選んだのは、地域観光に特化したゼミだからです。私の地元は賑やかな街ではなく、塩竈市の現状と共通点があります。そういう視点から地元を盛り上げる方法を考えてい

れて面白いですし、やりがいを感じます。

菊地 私は大学入学後に講義を受ける中で観光学の面白さに気が付き、このゼミを選びました。特に地域の方々と交流するのが楽しく、観光客と地域の方々を繋ぐ役



木村 由佳さん



鶴谷 友香さん

割を担えたらと考えています。先日塩竈に初めて行き、自分が住んでいる県でも知らないことが多くあると感じました。また自分の考えを文章に起こす機会がなかったので、貴重な経験をさせていただいています。

伊藤 私は1年生の時に宮原先生に声をかけていただき、南三陸町の復興を考えるプログラムに参加しました。地域貢献につながる観光学の面白さに触れ、宮原先生のもとで学びたいと思いこのゼミを選びました。フィールドワークでは、人との交流の場が広がるのが面白いです。

遠藤 私は生まれ育った石巻市のために将来何かできたらとこのゼミを選びました。震災当時は小学生でしたが、20歳を超えた今、地元に対して自分ができることがあ

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科

宮原 育子 教授

[現代ビジネス学部 現代ビジネス学科3年 「ビジネス課題研究Ⅰ」の皆さん]

鶴谷 友香さん 木村 由佳さん 北郷 七海さん 菊地 結芽さん
伊藤 優里香さん 遠藤 智香さん 石川 紗季さん 高橋 杏佳さん



るのではとより強く思うようになりました。商店街のプロジェクトで得たものを、石巻市にも活かすことができましたと思います。

石川 ずっと観光に興味があり宮原先生のゼミを選びました。高校生の時は観光・旅行というイメージでコンダクターしか思い浮かびませんでした。ゼミに入って地域との交流や活性化など深く関わる側面があることを知り興味ができただけで、もっと研究したいと思っています。

高橋 私は宮原先生の「ビジネス実践研究」という科目も取っていますが、その中で机の上の勉強だけでなく、現地での発見や交流からより深く観光学を勉強したいと思いいこのゼミを選びました。商店街のプロジェクトは8人全員の意見をまとめるのが難しく、さらに文

章に起こすのは初めてで学ぶことがたくさんあります。

自分で選び考えたことを
皆にわかりやすく伝える

宮原 塩竈市の商店街の調査は分担して取り組んでいます。それぞれが感じたことを一つのストーリーにのせ、最終的に全員の意見をとりまとめて提出したいと思っています。また先程もお話ししましたが、このゼミでは卒業論文の練習の一環として学術論文の講読を行います。学生にとっては初めての取り組みですが、難しい用語や調査の統計などをしっかりと調べていて主体的に動いていると思います。皆さんの論文購読のテーマと取り上げた新書について簡単に紹介してください。

鶴谷 私は東北三大祭りについて取り上げました。東北に住んでいながら三大祭りがすぐ思い浮かばなかったのが選んだ理由です。新書は齋藤孝氏の『コミュニケーション力』です。これから就職活動を進める中で、活かせることを



北郷 七海さん



菊地 結芽さん

アンズの奇跡』小さい頃によく行っていたスパリゾートハワイアンズが震災後に被害を受けて、どうなったのか興味がありました。

高橋 論文は「観光旅行者の経験評価の構造と規定因」で、観光客の行動、考え、感想を心理学の観点から分析した論文です。観光地によって、旅行者の考え、感想、行く理由、同行者などが全く異なっていることがわかりました。新書は『外国人から見た日本「誤解」と「再発見」の観光150年史』。日本観光の歴史を紹介した本です。実践研究ゼミでのテーマと関連し、外国人から見た日本がどのようなものなのかを知りたかったからです。

少しずつステップアップした先に
楽しい景色が見えてくる

宮原 現代ビジネス学科は実践的

皆と共有できたらと思いました。

木村 論文はインドの火葬場観光について読みました。政治的な考えや国の情勢などが影響して観光地化するなど、新しい考え方や参考になる知識があり面白かったです。新書は『三越伊勢丹モノづくりの哲学 新たな挑戦はすべて「現場」から始まる』です。地域に埋もれた技術を日本ブランド化して活かそうという話です。

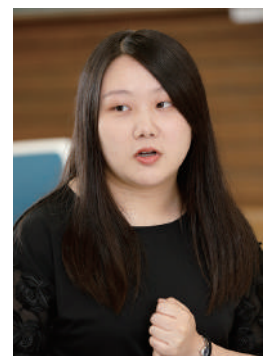
北郷 「ロマンチック街道の誕生」という論文で、ドイツのロマンチック街道について、ガイドブックでの紹介の仕方の違いを比較しています。ドイツでは人間のナショナルリズムに問いかけ、日本ではロマンチック・おとぎの国といった異世界を想像させる視点で紹介されていました。新書は『この国の息苦しさの正体 感情支配社会を生き

抜く』です。普段読まないジャンルで、タイトルが気になり手に取りました。

菊地 「ドラマ『アイリス』秋田ロケによるフィルムツーリズムの発生とその構造」という論文を選びました。アイリスという韓国ドラマの公開後に秋田のロケ地を訪れる人が増えた効果について書かれたものです。新書は『ブームをつくる人がみずから動く仕組み』。著者はうどんな県やひこにやんなど数々の地方PRをブームにした方で、自ら発信することでブームにつながることで、ビジュアルや言葉など新しいプロモーションの方法も学べました。

伊藤 論文は「イベント開催時における訪問者の目的地内移動パターン」ですが、内容は観光というよりマーケティングの分析がほとんど

な学習を大事にしています。2年生はまずは外に出ましよう、と調査にでかけますが、3年生では自分たちでテーマを考え、どんな調査が必要で、どう動くかを考えて欲しいと、論文や新書を読み解きながら調査方法やデータの使い方



高橋 杏佳さん



石川 紗季さん

などを学んできました。そんな中、地元情報誌からフィールド調査を含むテーマをいただき、学生の成長の糧にもなるだろうとお受けしました。まだ始まったばかりですが、学生は積極的に動いて分からない点は話し合っ解決し、受け身ではなく主体的に情報を集めて共有する流れが身についてきたと思っています。私も学生が学んできたことを発表するこのゼミを楽しんでいいます。学生には難しい課題を与えていると思いますが、それでも一生懸命取り組んでくれるので、そのまま続けてほしいと思います。階段をのぼるときは大変になります。今は少しずつステップアップしている段階なので大変かもしれませんが、後で必ず楽しくなります。観光は娯楽でもありま



伊藤 優里香さん



遠藤 智香さん

どでした。様々な学問が観光につながることで、分析から観光について繋げていくのも一つの手だと学びました。新書は『本社は田舎に限定』。著者はITベンチャー企業を東京で立ち上げた後、徳島県に会社を移転して、そのメリッ

すが、地域の課題を解決し、社会貢献ができる仕事でもあります。人と人、人と地域がつながるといいう観光の本質を身につけると、どんな職業でも社会に出たときに豊かな人生を築くカギになると思います。

トを紹介しています。私は山形県天童市の出身で、何か参考になるかもしれない、と選びました。

遠藤 選んだ論文は「日韓大学生の海外旅行意識に関する比較研究」です。日本と韓国の大学生に、旅行のアンケート調査を行った結果から次なる観光を考えていこうという論文です。マーケティングの資料も多く、読み応えがありました。新書は、茂木健一郎さんの『続ける脳』で、何かを継続して頑張れたらと思いい選びました。

石川 論文購読は「温泉情報の流通から見る江戸後期の『湯治』の変容に関する研究」です。江戸後期の温泉まで行く途中の行動、温泉地での行動が現代と比べてどう違うのか、という内容です。新書は『東北のハワイ』は、なぜV字回復したのか スパリゾートハワイ



2019年
6/8(土) MG 音楽祭



音楽科在学学生や教員はもちろん、卒業生や本学にゆかりのある演奏家が多数出演しました。本学のなかにしあかね特命教授とテノール歌手辻裕久氏による合唱講習会には約200名が参加。イベントの最後には音楽リエゾンセンター認定演奏員の演奏が披露されました。

2019年
7/5(金)・6(土) 学芸学部日本文学科特別企画
★☆☆北区 AKT STAGE 「幕末純情伝」

昨年に引き続き「★☆☆北区 AKT STAGE」(「★☆☆北区つかこうへい劇団」の劇団員有志により結成)による公演。初めてつか芝居を観た方も往年のファンの方も、一瞬にして引き込まれるほどの情熱を感じる舞台でした。



2019年
7/27(土) キリスト教文化研究所公開シンポジウム
「多文化共生基本法—地方の実践から考える—」

2019年4月から政府は、外国人労働者の受け入れ拡大の政策を推進しています。このシンポジウムでは、2007年以来、多文化共生に関する基本条例を定めて実践を重ねてきた宮城県の実例、同様の実践をしてきた静岡県、東京都世田谷区の事例を共有していただきました。日本のあるべき将来を地方から見つめなおす好機となりました。



2019年
8/10(土) 学芸員課程主催シンポジウム
「3.11—あの日のココロを後世へ—」

学芸員課程では、3年生の「博物館実習」の教育普及事業の実践として、受講生にシンポジウムの企画と実施を課しています。本年度は、受講生が小学校卒業直前に震災を経験し、今年、成人式を迎えたことをきっかけとして、震災体験を後世にどう伝えていくのかを課題に、ジャンルの異なる博物館から4館をお招きし、シンポジウムを開催しました。南相馬市博物館からは、原発問題も提起され、充実した議論が行われました。



2019年
8/11(日) 祝 宮城学院女子大学附属音楽教室
設立60周年記念発表会

「幼児から一貫した音楽専門教育を」という志のもと発足した音楽教室は、今年設立60周年を迎え、日立システムズホール仙台にて記念発表会を開催しました。なかにしあかね特命教授委嘱の合唱曲、小山和彦教授作曲のピアノコンチェルトが教室生達によって初演され、一生懸命音楽に取り組む姿を見せてくれました。また、及川浩治特任教授が特別演奏で記念の会を豪華に結んで下さいました。



2019年
9/21(土) 共生のための多様性宣言 記念講演会
「多様性を包摂する女子大学と社会：トランスジェンダー学生の受け入れを通して」

2020年度よりトランスジェンダー学生の受け入れを表明しているお茶の水女子大学より室伏きみ子学長をお招きしました。「本学は教育的・社会的な面で独自性の高い取り組みを行ってきました。常に学生や教職員と意見交換をし同じ意識のもと進んでいくことが大事です。誰もが過ごしやすい大学を目指し、一緒に課題解決していきましょう。」と述べられました。



宮城学院女子大学 開学70周年記念事業

本学は2019年、開学70周年を迎えました。それに伴い、今年度は周年記念と位置づける様々な取り組みを行っております。今後の情報は本学ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.mgu.ac.jp/main/about/mgu70th/>



学生活動

CanCam プロジェクト

活動期間 / 2019年2月～7月

企画や撮影、取材、原稿チェックなど、小学館CanCam編集部様のご協力のもと学生たちが手掛けました。学びの特長や学生生活、部活動の紹介はもちろん、ファッションやメイクのこだわり、人気のお店といった情報や、仙台市内・宮城県内の観光スポットも網羅しています。



映像制作委員会

活動期間 / 2019年6月～12月

学内イベントの収録、編集を行っています。TBCビジョン様にご指導いただきながら、カメラワークや進行管理などのノウハウを吸収。編集スタジオや収録現場の見学も行っていきます。完成した映像は本学YouTubeチャンネルへの公開などを予定しており、今後の活動にも注目です。



10/19・20
SAT SUN

一般公開

各サークルによるステージ発表や展示、生演奏、物品販売を行う模擬店など、キャンパス全体が多くの来場者で賑わいました。

2019

大学祭開催

宮城学院女子大学の秋の風物詩ともいえる大学祭が、10月19日(土) 20日(日)の2日間、桜ヶ丘キャンパスで開催されました。今年のテーマは「Brand New Day ~新しい物語の始まり~」。この日にむけて、長い期間準備や練習を重ねてきた学生やサークルのメンバーたちは、日頃の成果を披露しました。

10/18
FRI

仮装パレード

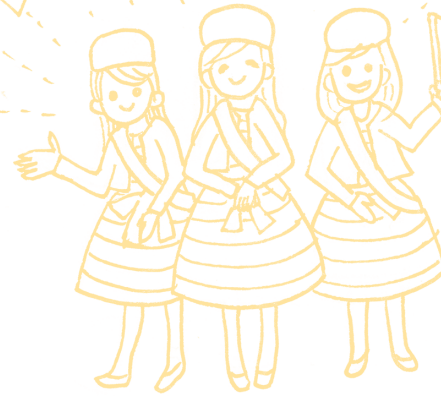
思い思いのコスチュームに身を包んだ学生たちが、一番町アーケード街など市内中心部を練り歩き、大学祭の開催をPRしました。



Action

躍動するMG生!

学内はもちろん、
さまざまな舞台で活躍する
MGUの学生たち。
ここでは、そんな彼女たちの様子を
紹介します。



日本文学科3年・日比野愛^{まな}さん 「2019せんだい・杜の都親善大使」に任命



杜の都・仙台市の
観光をPRする
「2019せんだ
い・杜の都親善大
使」に、学芸学部
日本文学科3年の
日比野愛さんが選
ばれました。任期

は5月1日から1年間。既に大使として青葉まつりや七夕まつりにも参加していたので、お会いした方もいらつしやるかもしれません。

日比野さんはこれまでの活動を通し、「美しい杜の都仙台の街を、県内外に広く伝えられるよう頑張ります。イベントなどで見かけた際はお気軽にお声がけください。これからも笑顔と仙台愛を大切にしながら活動していきますので、よろしくお願ひします!」と話してくれました。

学長賞を2団体・1名が受賞

昨年度より開設された「学長賞」は、課外活動や社会貢献活動において優れた成績や成果を挙げた団体に対して贈られます。今年度は以下の2団体・1名に贈られました。

●現代ビジネス学部現代ビジネス学科 石原ゼミ

石巻地域の郷土菓子「テーマ」とする「石巻お茶菓子プロジェクト」の活動成果が認められ、復興庁「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2018」でJ.R.東日本賞を受賞しました。

●生活科学部食品栄養学科

災害食ボランティア「Food and Smiler!」

県内外の防災・減災に関するイベント等で、衛生面・栄養面に配慮した災害食レシピを紹介しています。平成28年度食育推進ボランティア表彰（農林水産大臣表彰）や平成29年度「仙台若者アワード」優秀賞を受賞しました。

●学芸学部日本文学科 後藤 菜緒さん

「平成30年度第2回日本語検定」個人表彰において読売新聞社賞・優秀賞を受賞。また、日本文学科は団体表彰において平成29年度および30年度の2年連続で文部科学大臣賞を受賞しています。



「とみやブルーベリースイーツフェア」で 平本ゼミと小学生がコラボレート

富谷市と本学は、2016年に連携協定を締結しています。その一環として、富谷市の特産であるブルーベリーを使用したスイーツを提供する「とみやブルーベリースイーツフェア」を毎年学内の「うふカフェ」で開催しています。

今回は仙台市立桜丘小学校の児童約20名と、本学生活科学部食品栄養学科・平本ゼミの学生が協力し、ブルーベリーの摘み取りやメニューの考案・試作を行いました。7月26日のフェア当日は子どもたちがホール係を担当。すべてのメニューが開店30分で完売という大盛況



でした。平本ゼミに所属する学生は「子どもたちのアイデアが私たちの想像を超えるほど面白く、何度も試作しました。勉強になりました」と話し、お菓子作りが趣味という児童は「たくさんの人においしいと言ってもらえて、作って良かったです」と笑顔を見せました。

当日は富谷市の若生裕俊市長にお越しいただき、佐々木隆之副学長らとともにスイーツを試食していただきました。子どもたちによるメニューのプレゼンテーションや意見交換など、和やかなひとときとなりました。本学としても様々な分野において富谷市との連携事業に取り組む、富谷市の発展に貢献していきたいと考えています。



仙台市博物館 学芸員
小田嶋 なつみさん
(写真手前)

自分より長い時を生きる 貴重な資料を自らの手で守り 遥か未来へつなぐ誇り

——学芸員になるには大学院への進学が
第一歩と聞いています。

大学院に進むと就職が2年遅れるので勇気が必要でした。修了後は事務の仕事しながら勉強を続け、その後岩手県や山形県の博物館に勤務しました。宮城学院女子大学の先生や副手の方から「諦めずに頑張ったね」とよく言われますが、「学芸員になる」と宣言した手前、後に引けなくなったのが本音です(笑)。

——仙台市博物館での仕事について教えてください。

企画展のプロデュース・運営、資料の管理、マスコミと協力してのPR、関連イベントの実施など、業務は幅広く、ありとあらゆることを担当しています。特に思い出深いのは、今春開催した特別展「いっただって猫展」の企画・運営の中心に携わったこと。関係各所との綿密な連携が必要ですが、苦勞して作り上げる楽しさは格別です。



伊達政宗の軌跡を展示する常設展。歴史的資料は光の当て方、湿度など扱いが難しい。小田嶋さんは「大胆に、慎重に」を心がけているそう

小学生の頃から歴史や文化財に興味があり、中学生時代に学芸員の資格を知って目指すようになった永畑さん。二人の資料を見る目が輝く

「宮城学院の学芸員課程は東北有数のカリキュラムだと思うから頑張ってる」。博物館実習を控えた永畑さんを小田嶋さんが励ます

——学芸員を志す中で印象的だったエピソードはありますか？

大学院1年生の夏休みに東日本大震災で被害を受けた民間の美術館へ通い、資料を点検・梱包して避難させる作業を手伝いました。その際にお世話になった学芸員の方が「震災で建物が使えなくなっても、資料を守ることができれば、数十年後、数百年後に、その資料を活かす人が現れるかもしれない。自分より長く生きる資料を、自分の代でなくすわけにはいかない」と話すのを聞いて感銘を受けました。その施設の学芸員の方々は、震災発生時、すぐに収蔵庫や展示室に向かったそうです。私にとって、災害などで簡単に失われてしまう資料を守る学芸員という職業に誇りを持つ出来事でした。

——仕事をしていて良かったことは？

多くの方がガラスケース越しにしか見られない貴重な資料を、自分の手にとって管理できること。文化財や資料の実物に触れることができるのは責任も伴いますが、やはり感動しますし、一番のやりがいを感じます。忙しく

ハードな毎日ですが辞めたいと思ったことは一度もなく、この仕事を選んで本当に良かったと思っています。

——学芸員として今後手掛けたことは？

企画はたくさん考えていますが、今は秘密です(笑)。学芸員として現場にしっかりと携われる期間は短いので、企画を実現させるために準備を進めています。希望の職業に就くのがゴールではなくスタート。そこから自分がやりたいことが次々わいてくるので、毎日楽しくて仕方がないです。

——後輩に伝えたいことは？

学生時代は全力で勉強して、全力で遊んでほしいですね。知識はもちろん大切ですが、学芸員の素質として一番大事なのは人間性の豊かさ。いろいろな経験や挑戦をして、何故挑戦したか、経験してどう感じて何を得たか、一つひとつ確認していくことで、自分で考える力がつくと思います。どんな仕事でも、周りに流されず自分の考えや視点を持つことは大事です。

Profile 小田嶋 なつみさん

宮城県仙台市出身。宮城県名取北高等学校卒業。2010年3月宮城学院女子大学学芸学部人間文化学科卒業、同大学院人文科学研究科人間文化専攻へ進学、2012年3月修了。東北大学財務部事務を経て2013年4月より学芸員として勤務。八幡平市博物館(岩手県)、最上義光歴史館(山形県)にて資料の管理・収集、企画展の運営などに携わったのち、2017年より仙台市博物館に勤務。

[取材]

永畑 つばさ
(学芸学部日本文学科3年 / 写真奥)

[取材場所]

仙台市博物館
仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
企画展「やっばり絵図がすき!」10/11~12/1開催



平川新学長
仙台市政特別功労者表彰を受賞

7月1日、仙台市は市制施行130周年記念式を仙台国際センターで開催し、仙台市政に功労のあった138名を表彰しました。本学・平川新学長は特別功労者12名のうちの一人として、元JRR東日本社長・清野智氏、東北電力社長・海輪誠氏、建築家・伊東豊雄氏とともに表彰されました。

平川学長の受表彰理由は次のとおりです。

「新たな防災・減災のまちづくりの研究を通じて、東日本大震災からの復興と地域社会の発展に貢献されるとともに、人材育成に尽力され、本市の発展に寄与された」

ミツバチ科学研究部門設立
高校生研究員が活動中

4月、ジャパンローヤルゼリー株式会社への寄附により、本学生活環境科学研究所に「ミツバチ科学研究部門」が設立されました。

6月6日には家政館屋上に設置している巣箱よりハチミツを取り出す「採蜜見学会」を学内関係者を対象に行いました。採蜜量はこの日だけで約35kg。学内に植栽しているトチノキに加え、周囲に広がる森林の花の蜜が含まれています。昼休みの学生たちも交え、蜜が集められた巣板の取り出しや攪拌して蜜を抽出する作業を体験しました。

また、設立と同時に、ミツバチやその生産物を深く学び大学の研究の一翼を担う「高校生研究員」を募集し、現在12名が活動しています。蜜源・花粉源の解明やミツバチの行動・生理、天敵・ダニへの対処法、本学産ハチミツの分析と利活用といったテーマごとに活動し、3月の研究発表に向けて取り組んでいます。



食品栄養学科による
ラジオ番組を放送しています

生活科学部食品栄養学科の学生が担当しているラジオ番組「管理栄養士を目指す宮城学院女子大生のパワフル奮闘記」(FMいづみ 79.7MHz / 毎週月曜日19時半〜20時)は12年続く長寿番組。代々、正木ゼミに所属する学生たちがパーソナリティーを務めています。取り上げる話題は、食や健康、キャンパスライフ、泉区のおすすめスポットなど様々。番組はネットラジオでもお聴き頂けます。PCサイト「サイマルラジオ」、スマートフォンアプリ「リスラジ」にてお楽しみください。

あとがき

イベントだけでなく学生活動も行っている開学70周年記念事業。CanCamプロジェクトに参加した学生たちは、平川新学長へ完成報告をした際、「締切が近付くにつれて確認事項や相談ごとが多くなり、本当に大変だった」と話していました。また映像制作委員会には初めて学生活動に参加するという学生が多いです。学外の大人たちと関わるなかで様々な壁や不安を感じることもあるようですが、学生たちに共通しているのは「楽しんでいる」ということ。学年も学科も違う仲間と意見を出し合い、1つのものを作り上げる過程で、ネガティブなことを突破できる力が自然と備わるようです。

サークル紹介 01

オリエンテーリング部

- 部員数: 14名
- 活動日: 土・日曜日
- 活動場所: 宮城県内の森や公園

持ち物は地図とコンパスのみ
自分の足で自然を走破する

オリエンテーリングは、地図とコンパスのみを持って自然の中に入り、決められた順番でチェックポイントを辿るスポーツです。様々なコースや年齢別のクラスがあるので、初心者からベテランまで楽しめますよ!

自分が決めたルートで迷わず次のチェックポイントに行けたときの達成感は格別! ゴールしてから他の参加者と振り返ると、思いがけないルートを発見できることもあります。

得意になった地図読み
目指すはタイムの向上!

メンバーは皆、自然で遊ぶことが好きでおっとりとしています。活動を始めたばかりの頃は時々道に迷うことがありましたが、だんだん地図やコンパスを使い慣れてきて、地図読みが得意になりました。1分でも1秒でも速くなって少しでも順位を上げられるように、日々の練習を頑張ります!



ゴール直前、全力疾走!



メンバーの応援は
ハートの源ぞう



部長
佐藤 汐子さん
(学芸学部 心理行動科学科3年)

サークル紹介 02

演劇部

- 部員数: 14名
- 活動日: 月・水・金曜日
- 活動場所: 小ホールや講義館C304教室

次回公演は2月、どうぞ期待!

演劇部の公演は年に2回あります。そのための稽古や、発声練習や筋トレ、即興劇などの基礎練習が日々の活動です。大学祭公演が終わったばかりですが、2月の公演に向けて準備を始めています。無事に成功させることと、観客の皆さんはもちろん自分たちも楽しめる演劇を作ることが今の目標! たくさんの方々に来て頂けると嬉しいです。ツイッターで情報発信しているので、ぜひチェックしてください! (アカウント: @mgengeki)

居心地が良い理由は「バラバラの個性」

示し合っているわけではないのに、自然と部屋に集まってくるのが演劇部のメンバーの特徴。合宿中に自主練習をしても、周りに人が集まって全体練習になってしまうことがよくあります。1人1人はとても個性が強いのに、しっかりひとつにまとまっているんです。そんなメンバーと作品を作り上げるのが楽しいし、やりがいを感じます。



身も心も引き締まる
殺陣の練習



稽古を重ねた大学祭公演!



部長
吉城 菜海さん
(学芸学部 日本文学科3年)